



札幌市生活支援体制整備事業



生活支援コーディネーター活動事例集



令和4年3月

はじめに

○生活支援コーディネーターは、高齢者をはじめ地域にお住まいのみなさんが、いつまでもいきいきと安心して生活できるよう、地域組織や関係団体、社会福祉法人、民間企業などと連携しながら、日常生活の支援体制の充実を図り、支え合いの仕組みづくりを推進する役割を担っています。

○札幌市内においては、10区に第1層生活支援コーディネーター、27の地域包括支援センターエリアごとに第2層生活支援コーディネーター（生活支援推進員）が配置され、各担当地域で様々な取組みを展開しています。

○本冊子では、第2層生活支援コーディネーターのエリアごとに、活動事例を紹介しています。生活支援コーディネーターの活動について、理解を深めていただき、更なる生活支援の充実、支え合いの仕組みづくりに向けて、一層のご協力をいただければ幸いです。

目次

1. 札幌市における生活支援体制整備事業	1
2. 令和3年度「支え合いを広げる地域づくり座談会」	2～3
3. 生活支援コーディネーター活動事例	
中央区	4
北区	5
東区	6
白石区	7
厚別区	8
豊平区	9
清田区	10
南区	11
西区	12
手稲区	13
4. 第2層協議体会議の開催状況	14～15
5. 座談会の講評／イメージキャラクターのご紹介	16

札幌市における生活支援体制整備事業

ひとり暮らし世帯や支援を必要とする高齢者が増加する中、地域組織やボランティア、老人クラブ、社会福祉法人、NPO、民間企業など地域の多様な主体が連携を図り、ちょっとした生活の困りごとを解決する高齢者の生活支援「**支え合いの仕組みづくり**」を推進します。

① 社会資源の把握・資源開発

地域にある様々な情報を把握・整備します

生活支援に関する有償サービスやサロンなどの地域の居場所など、高齢者の生活にとって必要なサービスや場所などを把握し、「見える化」を行います。不足するサービスについては、新たに開発します。

② 生活支援ニーズの把握・共有

高齢者の生活に関する困りごとを調べます

地域にどんな困りごとが多く、どのような理由があるのかをアンケート調査や関係機関の会議への出席などにより把握・分析し、地域の方と共有したうえで、市民に発信・周知します。

③ 担い手の育成・発掘

元気な高齢者を中心とする社会参加を応援します

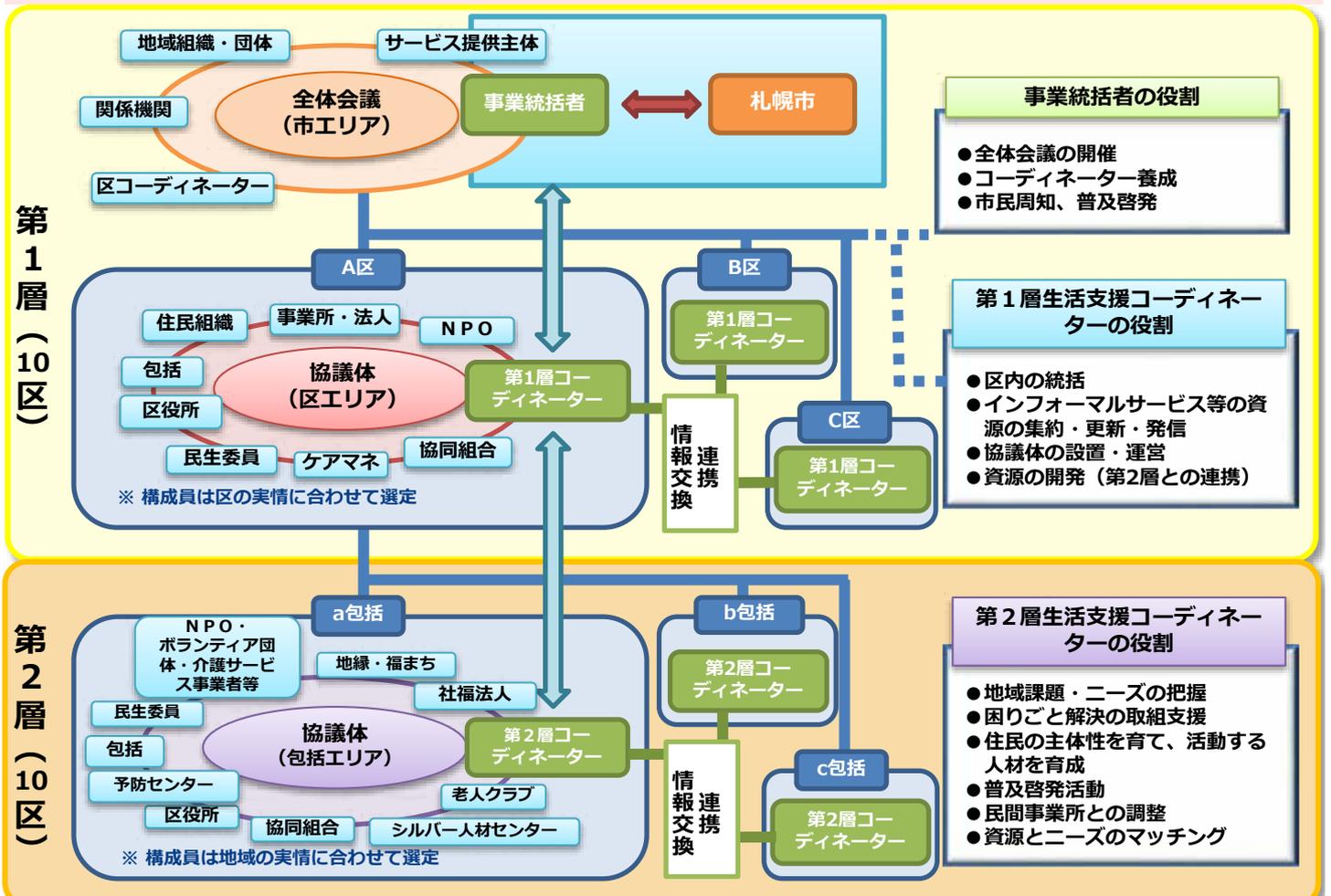
住民への説明会、ボランティア講座や住民ワークショップの開催などを通じ、「住民主体による支え合いの大切さ」を伝えるとともに、支え合いに参画する担い手を養成します。

④ 協議体の設置と運営

地域の困りごとやその解決方法を考えます

地域住民や関係機関などが集まり、地域における生活課題や情報共有、連携強化し、地域の支え合い活動（ごみ出し、掃除、外出支援等）の仕組みづくりにつなげます。

札幌市生活支援体制整備事業（イメージ）



買い物でみんながつながるまちづくり～豊平区旭水町内会の買い物支援～

札幌市内で「支え合いの地域づくり」に先進的に取り組んでいる旭水町内会買い物支援実行委員会の皆さんと座談会を開催しました。東北福祉大学の高橋誠一 教授を座長に迎えて、旭水町内会のこれまでの取り組みを関係者とともに振り返りながら、みんながつながるまちづくりについて話し合いを行いました。

※ 旭水町内会では、移動スーパーとくし丸を利用し、町内に買い物拠点8カ所を設置。買い物支援実行委員会が中心となり、ボランティアによる買い物サポートや、PRチラシ・ポイントカードの作成などを通じて、買い物支援を盛り上げ、買い物支援をきっかけとした地域コミュニティの活性化を進めている。



■ 地域に本当に必要な買い物支援を

高橋(誠) 旭水町内会では他の地域にも参考となる買い物支援の取組みを進めていらっしゃる。ただ、地域的には比較的利便性の良いところだと思いますが、いかがでしょうか。

高橋(恒) そうですね、市の中心部にも近いので、マンションも多いエリアです。しかし、昔は町内に商店がいくつかありましたが、現在はコンビニくらい。スーパーまでは距離があり、高齢化が進む中で、町内会としても買い物は課題であると感じていました。

高橋(誠) 中心部にも近く、移動が自由にできるうちは住みやすい環境であった。しかし、高齢になる事により不便さも出てきて、町内会としても住みよい環境づくりに向けた取組みを考えることになったんですね。買い物支援を考えるにあたって、どのようなことをポイントに話し合われたのでしょうか。

屋根田 支援を必要としているのは大体一人暮らしの高齢者。買い物だけでなく、お互いが交流できる憩いの場も同じくらい必要ではないかと思っていました。

高橋(誠) そうですね、問題が1つあるとそれを解決する事だけに着目しがちですが、高齢者が一人暮らしになって困っている事はそれだけではないですよ。そういうことに気づけるのは、同じ地域に住んでいる人ならではのですね。

瀧口 ただ買い物について支援すればいいということではなく、町内が一致団結して、協力の輪をつくり、絆をつくっていくことが何より大事だと思っていました。

高橋(誠) すばらしい発想ですね。町内会としては、もともと住民同士のつながりが深かったのでしょうか。地区福祉のまち推進センターとして、地区全体をご担当している立場から見ているかがですか。

渡辺 そうですね。地区内でも歴史の古いエリアで、顔馴染みも多く、まとまりがある印象です。また、町内にある旭水会館という拠点も有効に活用しています。

高橋(誠) 生活支援コーディネーター・生活支援推進員として

は、どのような関りをされていたのでしょうか。

座長
高橋 誠一氏
(東北福祉大学
総合マネジメント学部 教授)



(旭水クラブ 総務部副部長)

買い物支援実行委員会
ボランティア部長
伊藤京子氏



(旭水町内会 女性部長)

買い物支援実行委員会
ボランティア副部長
古屋康子氏



(社会医療法人恵和会 職員)

地区担当第2層
生活支援推進員
多田めぐみ



(豊平区社協 事務局次長)

第1層生活支援
コーディネーター
西川 圭



豊平地区福祉のまち推進センター運営委員長
渡辺 英雄氏

(豊平地区町内会連合会 副会長)



買い物支援実行委員会
実行委員長
高橋 恒夫氏

(旭水町内会 会長)



買い物支援実行委員会
実行副委員長
屋根田 正美氏

(民生委員・児童委員)



買い物支援実行委員会
事業部長
瀧口 潔氏

(旭水クラブ 会長)

西川 はじめは地域を歩き、色々な人から話を聞くことで買い物に困っている方が多いということがわかりました。老人クラブさんに協力いただいたニーズ調査で、それがはっきりし、そのデータをもとに、みなさんと町内会の買い物支援を一緒に考える場を設けました。送迎バスや宅配など、様々な買い物支援の方法を提示し、みなさんと検討して、現在の移動スーパーを使用した支援が始まりました。

多田 私自身、経験が浅かったこともあり、はじめはとにかく一緒に活動してみなさんの取組みを勉強させていただいて、それを記録していきました。買い物だけではなく、高齢者の支援に必要なことを話し合うみなさんの真剣な姿に感動していました。

■ 買い物支援を通じたコミュニティの活性化

高橋(誠) 町内会での買い物支援に向けて、協議体で意見交換を重ねてこられたということですが、町内会として負担感はなかったのでしょうか。

高橋(恒) 町内会では、活動の柱の1つとして、「地域の活性化」を挙げておりますので、買い物支援を通じて地域を活性化させることを意識していました。

高橋(誠) そうですね。移動スーパーをただ呼べばいいということではなく、みなさんのお話からは、買い物支援を活用して、交流やそのほかの高齢者の支援など、移動スーパーを上手く活用して、自分たちの地域を盛り上げていっている様子がわかります。

古屋 コロナで町内のみんなと顔を合わせる機会がなくなっていました。この買い物支援という機会が、地域の交流の場になったことは本当に意味があると思っています。

伊藤 買い物を通じて出会った方に声かけをすると、「足が痛い」、「ケガをしてつらい」といった声を聞くことがあります。たいしたことではないけれど、そんなときは買い物袋に入れるのを手伝ってあげたり、荷物を持って差しあげると、すごく感謝していただける。自分もやっていて良かったと感じる瞬間です。

高橋(誠) 取組み自体は、買い物支援ですが、見守りや困りごとを自然に聞いたり、地域のつながりづくりなど色々な役割・効果がある。実は、買い物支援以外のこういった取組みが、何物にも代えがたい価値がある取組みではないでしょうか。

■ みんながつながるまちづくり

高橋(誠) 移動スーパーが地域の拠点へと発展しているようですが、そこには、みなさんのどんな思いがあったのでしょうか。

瀧口 たまたま買い物支援だっただけ、基本は地域を豊かにしたい、みんなが笑顔になれる地域にしたい、そういう思いで活動しています。

高橋(誠) やはり地域づくりがベースになっていることが大きいですね。

古屋 買い物で出会った人たちが、私たちの知らないところで交流しているというお話も聞いています。そういうお話を聞くと私もうれしくなります。自分自身関わって楽しいということが原動力になっています。

高橋(誠) 楽しいということが活動を続ける秘訣ですね。他の地域でも課題解決だけに着目するのではなく、楽しいと思える取組み、地域づくりをベースに考えて、みんなでお互いさまの支え合いの取組みを考えていければ、自然と課題も解消されるはずですよ。

《動画視聴のご案内》

座談会当日の様子や生活支援コーディネーター・生活支援推進員からの報告、取組紹介の動画について、以下から視聴できます。ぜひご覧ください。

☆第2層生活支援推進員の報告(約20分)

(<https://youtu.be/zJgzEQD9AjK>)

☆第1層生活支援コーディネーターの報告(約19分)

(<https://youtu.be/H-ciRLqhyFc>)

☆旭水町内会の買い物支援の取組(約15分)

(<https://youtu.be/KBhepRzeCEY>)

☆支え合いをひろげる

地域づくり座談会(約74分)

(https://youtu.be/Az6L832z0_I)



【中央区】生活支援コーディネーター活動事例

事例概要(第1エリア)

「地域住民」＋「北海寺」＝「おちゃのま」

東地区のNPO法人E-LINKが、北海寺を拠点に令和3年6月から始めた取組「おちゃのま」。毎週木曜日、地域の小学生～中学生までが放課後等に集まり、自宅に帰るまでの数時間を自由に過ごしています。

最近では生活支援コーディネーターもつなぎ役として関わり、地域住民の参加も増えてきています。

「地域住民と一緒にイベントだけでなくお互いに相談にのれるような場にできれば」という想いも自然発生しており、今後は、地域の支え合いの「場」の1つとして発掘が進みそうです。

関わりあいの関係図



《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

- ◎学生ボランティアも巻き込むことで、高齢者の生活支援に繋がる多世代交流の場を意識しました。
- ◎東地区住民がどんどんつながり、自然に支え合える「場」ができるようにフォローしました。

事例概要(第2エリア)

宮の森大倉山地区「生活支援情報MAP」作成

介護予防センターと民児協のみなさんが協力して作成した「シニア集いの場マップ」の第2弾の取組が始まりました。前回メンバーや関係機関と協力・協議を重ね、民児協のみなさんへの困りごと把握等のアンケートを実施し、その結果をもとに買い物支援情報を中心としたマップが令和3年11月に完成しました。このマップには、「住民の生活上の困りごとの把握が、地域の様々な資源とつながるように」との想いが込められています。今後は、このマップをコミュニケーションツールとして活用し、集合住宅等との関係強化につなげていくことを予定しています。



《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

- ★山間部の多い地域の生活支援に向け、民生委員の皆さんの意見を基に協力体制を構築しました。
- ★作るだけでなく、活用するシーンを意識して話し合いを実施しました。

事例概要(第3エリア)

山鼻地区第2町内会『喫茶店サミットinエンジェル』開催

山鼻地区の高齢化率は中央区の中でも比較的高い27.7%。高齢者夫婦、単身世帯、高齢者住宅の増加傾向が目立つため、コロナ禍でも住民が孤立しないようなコミュニティ活動が課題となっていました。

南15西7に立地する『Tearoomエンジェル』は開店38年目。元民生委員でもあるベテランオーナーの気さくな人柄もあり、なじみの客同士の交流の場となっていることを資源調査の一環で発見。公共のサービスを好まない高齢者もいる中、ごく自然な形で地域の見守り拠点としても機能している喫茶店を地域資源として活用することで、さらに集い合い、支え合うための新たな居場所として確立できないかとの思いから、常連客と関係機関、82年間この地に暮らす町内会長が交流できる場を設けました。「エンジェルがあるから安心」となる体制づくりを、参加者の皆さんと模索中です。



《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

- ★喫茶店という特殊なコミュニティの場での協議体は、楽しい雰囲気づくりを工夫しました。

【北区】生活支援コーディネーター活動事例

事例概要(第1エリア) 北24条商店街を歩いて巡って、介護予防！ 「健康促進シルバーわくわくスタンプラリー」

コロナ禍で、高齢者は孤立しがちな生活を強いられ、「外出の機会が減った」「運動する機会が減った」等の声が聞かれています。

これらの困りごとに対する取り組みを検討するために、高齢者にとって身近な買物先である『北24条商店街振興組合』と話し合い、シニア向けのスタンプラリーを実施しました。商店街の協力店を歩いて巡りスタンプを5個集めると、商店街で使用可能なお買い物補助券100円分を進呈するという内容です。ご参加いただいた方からは「おしゃべりと運動ができて楽しかった」「普段行かない所へ外出するきっかけになった」「今後も続けて欲しい」といった声が寄せられ、大変好評を得ることができました。

スタンプラリー終了後には、北24条商店街振興組合や実際に参加された方との協議体を開催し、商店街との継続的な協力体制を築いていくことを確認し合いました。



《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

住民同士のつながりを後押しし、地域全体で高齢者を支える体制づくりを心掛けています。

事例概要(第2エリア) 生活支援活動の啓発や社会資源の 把握を重点実施



地域活動者への説明の機会をとおして、地域住民同士で支え合う生活支援活動の普及・啓発を行っています。主に、町内会の役員に対する説明の機会を設けていますが、町内会の福祉活動として改めて高齢者の生活支援を考える場にもなっています。また、タイムリーな情報を地域住民に提供するため、高齢者の生活に役立つサービスを実施する店舗などを改めて訪問し、調査しています。



《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

生活支援活動の充実のため、活動者への啓発の機会を多く持つことを心掛けています。また、必要な情報を提供できるよう社会資源の適切な把握を心掛けています。

事例概要(第3エリア) 「屯田♡支えあい」を通して地区に広がる生活支援！

「屯田地区ボランティア講座」を受講された方々で平成30年に結成された生活支援ボランティアグループ『屯田♡支えあい』。グループの立ち上げから活動支援を継続しています。

メンバーの「活動を周知し、より多くの方の役に立ちたい」「活動仲間を増やしたい」という意向を受け、令和2年度に協議体を開催。福祉活動を行う住民組織や団体と交流する機会を設け、地区の生活支援活動について意見交換を行いました。

令和3年度には、協議体で繋がりを得た「地区民児協定例会」でグループの活動等について紹介を行うなど、メンバーと一緒に、一歩ずつ確実に、支え合い活動を広げているところです。



《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

活動目的をしっかりと伝えることでメンバーのやる気を引き出し、グループ結成につながりました。現在は、メンバーの優しさや仲間意識を尊重し、補完的な立場での支援を心掛けています。

【東区】生活支援コーディネーター活動事例

事例概要(第1エリア) 「鉄東会館に桜を咲かせに行こう！」

コロナ禍により閉じこもりがちな高齢者の「運動機会創出」「心の健康・つながり維持」を目的に、介護予防センターなえば、鉄東まちづくりセンターと協働しイベントを企画。会館まで歩いてきて桜の付箋に思いをつづり、5回参加された方にささやかな景品を贈呈しました。

結果、22名が参加、70枚の桜が開花！まん延防止等重点措置が発令され、残念ながら予定より早くイベント終了となりましたが、それでも7分咲きの桜を見ることができました。

「目標があることに感謝」「久しぶりで元気が出た」などの感想が寄せられるなど、コロナ禍で孤立しがちな高齢者が外部とつながるきっかけになりました。



《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

町内会、民生委員、福まちのほか、会館近くの住民が通うサツドラにも周知等協力いただき連携。イベントを通して、地域資源の把握、ネットワークづくりも行うことができました。

事例概要(第2エリア) さあ！「中沼西の未来を語ろう」

令和3年10月18日・11月8日札幌保健医療大学を会場に『中沼西の未来(あした)を語ろうプロジェクト～動く・食べる・つながる～』と題したワークショップを開催。地域住民、学生、介護事業所、関係機関等が参加しました。

第1回は参加者同士、地域の現状と課題を共有。第2回は共有した地域の現状や課題を基に、学生から地域住民と一緒に取り組みそうな内容についての提案がなされ、具体的に取り組んでいくための方法について意見交換を行った結果、学生からの提案内容を題材に令和4年2月に地域住民と学生の交流会の開催を決定しました。



《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

お互いに近くて遠い存在だった地域住民・学生・関係機関が、1つのテーマをもとに地域の今後について考える機会が持てたことで、互いの距離感が少し縮まりました。今回の取り組みをきっかけにできたつながりを、みんなで大切に育んでいきたいと思えます。

事例概要(第3エリア) 「♪離れていても、心はひとつ」

令和3年10月12日～15日、栄西地区福まち主催の「福祉マップ更新会」の参加者を対象に『栄西つながりの木2021』イベントを開催。各々の今の想いを記入し紙に貼ることでその場にはいない人へ気持ちを伝え、メッセージを読むことでそれぞれの想いを共感するという内容。最終的に137ものメッセージが寄せられました！

また、11月10日には、「このメッセージを共有したうえでつながりをより一層深めるにはどうしたらよいのか」というテーマで意見交換会を開催。「大切にしてきたつながりを絶やさない工夫や、顔見知りを増やし交流を深めるために話し合いをしていこう」などたくさんの意見が出されました。



《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

「会えない時間が想いを育てる」ということを実感しました。顔が見たい、話がしたいというお気持ちを「見える化」することで、メッセージとしてお伝えすることが出来ました。

【白石区】生活支援コーディネーター活動事例

事例概要(第1エリア) お困り事、お寄せください！

令和2年度に開催された『白石地区高齢者ふくし電話相談窓口』についての協議の結果、継続的な支援を行っていくこととなり令和3年度は4月21日・10月15日に協議体を開催しました。

4月の協議体では福まちが電話相談を行っていることの周知方法やPR用のチラシ作成について福まち役員の方と話し合いを行い、続く10月の協議体では地区社協の役員の方に、福まち・町内会・民児協3者が連携した相談体制の構想について説明を行いました。最初から地区全体で始めるのではなく、見守り活動等福祉活動が熱心な「白石区本通親和会」をモデル町内会として取り組みを進めていくことについてご理解いただき、意識共有を図ることができ、試験的に活動を実施しています。



《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

昨年度白石地区内ほとんどの活動が停滞し、役員会も開催出来ていない状況でした。その中で「今できること」を考え、地域のペースに合わせ地域の方がやる気になるのを待ちながらも、意識的に地域に出向き情報を得ながら継続して関わることを意識しました。

事例概要(第2エリア) 「繋がり」の輪 広がっています！

UR東札幌6条団地では、毎月最終水曜日に野菜等の移動販売を実施しています。コロナ禍による外出自粛の影響で人と会う機会が減っているため、移動販売を活用した集いの場作りや買い物困難者への周知に向けて令和3年6月30日に協議体を開催しました。「複数店舗が参加すれば興味を持ってもらえるのではないか」などの意見が出されたことを受け、障害福祉サービス事業所が運営するパン屋にも声掛けを行い8月から参加いただいています。



結果、パン屋を目当てに新たな利用がありました。また、重い荷物を運ぶことが困難な方のために、ボランティアグループ「しろいし生活応援ひだまり」に自宅までの荷物の運搬に協力いただいています。

《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

協議体での意見を実現していくことにより、より多くの方に集いの場を新たに利用していただけたと考えています。今後も自治会・移動販売業者・しろいし生活応援ひだまりの三者と協力し合い、買物を楽しみながら仲間と会話を楽しめる居場所を作っていきたいと思います。

事例概要(第3エリア) 「オンライン」って意外と簡単！？

本郷町内会圏域では、令和2年度に引き続き、相談窓口一覧表の作成や関係機関との連携、スマホなどのオンラインを活用した取り組みをテーマとし、令和3年4月5日・9月6日に協議体を開催しました。

9月の協議体は、関係機関にZOOMで参加してもらい、オンライン形式で会議を開催。初めてオンライン会議に参加した地域の方からは、「思ったより難しくなかった」「久しぶりに顔を見て話せたので嬉しかった」とオンラインを使った取り組みについて、いいイメージを持ってもらうことができました。今後も、地域でのスマホ教室の開催等、地域の皆さんが興味のある活動をサポートしていきます。



《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

コロナ禍により、これまでよく会っていたご近所の方や近隣のご家族とさえ顔を合わせる機会が減っていることから、今後は、関係機関とも連携し、「つながる機会を創出」するためスマホなど、オンラインを活用した取り組みを積極的に進めていきたいと思っています。

【厚別区】生活支援コーディネーター活動事例

事例概要(第1エリア) 動画でつながりづくりを後押し！

「結城さん、あの動画を見て入会申し込みがきたよ～」とヨガ教室の会長さんから電話が入りました。

生活支援体制整備事業が始まったときに独自で立ち上げたホームページ【厚別区生活支援ポータル】に掲載した団体の紹介動画に反応があったことで「うれしくて教えなくちゃと思ったの」と、私自身もうれしくなるお言葉をいただきました。

このホームページは関係機関・地域住民の方へ《簡単に提供できる社会資源情報》という思いから立ち上げたものです。地域でのイベント情報、生活を送るうえでの困りごと対応先や、集える場所など、「あったらいいな」と思う事柄を掲載しているのですが、「〇〇の情報はない？」と聞かれることが多々ありました。「ああ、まだまだ認知度がひくいなあ」。

課題を心に秘め、日々地域を歩き挨拶を交わしながら社会資源の取材。ある時「この取材って某テレビ局の地域のお宝紹介番組に似てるかも」とひらきました。取材の様子を動画にすることで「ネットに出たよ～」「見たよ～」という会話が、取材参加者はもちろん、その家族・友達・知人と波及していくことで、「認知度があがるのでは！」と思い、不慣れながらも動画を作成。

この動画がきっかけとなり「見たよ～、他にも検索してみた～、友達にも教えてあげた～」との声が！閲覧者が増えることで、ポータルを介して新たな繋がりがうまれ、社会参加への後押しになるはず！！と期待しながら、更に興味を持ってもらえるよう創意工夫に努めます。

厚別区生活支援ポータル
(seikatsushien.net)

《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

動画をサイトにあげる前にみんなで上映会を開いたことで、一方的に流れるものではなく、当事者たちと作り上げたものになり、みなさんと親近感が生まれました。



事例概要(第2エリア) 主役は地域のみなさんです！！

これまで開催してきた2層協議体は、専門職の視点で地域の困りごとを見つけニーズを調査し、解決の道筋を提案していく形でした。しかしそれは「はたして、地域住民の方が主役になっているだろうか？」という疑問をずっと持っていました。そこで「住民の方がもっと自由に地域の未来を考え、そこで出てきた課題の解決や魅力の発信をSCがお手伝いしていける場を作りたい！」と考え、協議体の運営方法を転換。

「イメージに近い運営をしている」と1層SCから紹介があった北広島市の2層協議体に参加し、また、実際に1層協議体に北広島市の2層コーディネーターの方を招いて勉強させて貰い、今年度から厚別中央地区で住民主体の協議体『ぷらっとあつべつ会』を設置することが出来ました。

参加していただいている地域住民の方は、コーディネーターとしての日々の活動を通して交流が持てた方で、様々な分野で活躍をされている方ばかりですが、この会を立ち上げるにあたっては、町内会や民児協、福祉のまち推進センターなどに事前に趣旨を説明して、理解していただくところからスタートしています。

初回の会議では「町内会と子ども食堂における協力関係や多世代交流の話題」「担い手の高齢化と後継者不足」「男性の居場所がない」などの話題が上がり、それについて活発な意見交換がなされました。今後も定期的な会議として開催していくこととし、参加者が他の住民の方に声をかけ、誘い合わせて参加するなど、自然とつながりの輪が広がっていくような場にしていきたいと思ひます。

《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

従来の【協議体】の名称は使わずに『ぷらっとあつべつ会』というネーミングを使用、気楽で自由に話をする事ができるような雰囲気を心掛けています。



【豊平区】生活支援コーディネーター活動事例

事例概要(第1エリア)

地域の生活に役立つ情報をリスト化！！
「黄色のりんごの友だち」の取組

令和3年12月21日
美園地区福まち代表推進員会議



美園地区では令和3年10月、福祉のまち推進センター黄色いりんごの代表推進員会議にて、少子高齢化が進む地域の支え合いについて、1層コーディネーターより事業説明を行いました。

黄色いりんごでは、かつて、地域の協力企業や協力員をリスト化した「黄色いりんごの友だち」の活動を行った経緯があることから、当時の福まち代表の思いをのせたこの活動を今回あらためて復刻させ、地域の相談事に活用できる「リスト作成」を提案しました。12月には美園地区商店街振興組合の理事長を訪問、事前に商店街組合員に向けたアンケートを実施する方向で助言を頂きました。今後は、春頃から福まち推進員による企業訪問を開始し、地域が活用しやすいリスト作成を目指します。

《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

◎地域住民への日常的な見守り活動を行っている福まち推進員が、実際に地域にあるお店などを直接訪問することで、地域住民（地域の福祉活動者）とサービスを提供する側（企業や店舗）にお互いの顔が見える関係性が生まれる仕組みを目指しています。今後のリスト作成では高齢者の生活に役立つ活用方法を地域一丸となって考えることを目標としています。

事例概要(第2エリア)

高齢化する団地で
生活支援ボランティアの会復活へ！！

令和3年8月19日
自治会長を訪問（1層・2層）



市営西岡南団地は、8棟235戸、今年度の高齢化率は53%です。

今春、西岡地区福祉のまち推進センターを通して、自治会長から「生活支援ボランティアの会を再結成したい！」との意向が届きました。

南団地では、数年前から室内灯油タンクへの移し替え作業ができない高齢住民が数名存在しており、過去に団地内でボランティアの会を結成して支援を開始した経緯があります。当時、実際には依頼が無く活動は休眠状態となりましたが、住民間ではお隣同士の助け合いで対応がなされ、「ニーズはあるのに声は上がらない」という状態が恒常化していました。

このことから、「いつかはボランティアの会が復活するという話になるのでは」という思いを念頭に置き、この南団地の集いへの参加、1層の事業周知、2層助け合いゲームの実施など繋がりを絶やさずに関係を継続してきました。ボランティアの会の復活へ！南団地自治会が今、動き始めました。

《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

☆休眠している社会資源に着目、つかず離れず復活を促すアプローチ☆

◎自治会の意向に基づき1層コーディネーターがアンケート調査用紙を作成。結果をもとに、1層と2層が一体となり、①困り事ニーズの把握と分析 ②新たな担い手の発掘 ③活動内容と利用の仕組みの構築へ、生活支援の担い手や支援を必要とする住民と話し合いながら取り組みました。

事例概要(第3エリア)

助け合いゲームから
「支え合いの仕組み」づくりへ

令和3年10月12日



「介護予防センター月寒」より、サロン向けの「助け合い体験ゲーム」実施の依頼を頂きました。当初より、ゲームのみに留めずに支え合いの会づくりへつなげていくという方針を念頭に置き、予防センターと1層・2層間で共通認識を持つてのぞみました。

当日は、1層より社会参加を続けることの大切さ、支え合い活動の事例について説明。その後の体験ゲームでは、「困っている事もあるけど、助け合っている事もある」と参加者同士で再認識。自治会がない団地内で、管理人が全体の窓口を担っており、負担が大きくなっている課題こそありますが、「今はまだ元気なので誰かの力になりたい」と嬉しい声も聞かれており、それぞれの自主性を後押しした形での体制づくりに向け、1月13日に協議体を開催。住民ニーズ調査を行うことが決まりました。

《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

◎団地全戸にアンケート調査を実施し、広くニーズを把握することを意識しています。今後は、改めてニーズを抽出しながら、住民同士で始められる支え合いについて検討していきます。

【清田区】生活支援コーディネーター活動事例

事例概要(第1エリア)

町内会と地区社協が協力して担い手を募集！！

協議体で、ちょっとした困りごとを顔見知り頼むのが気が引ける。同じ町内会の人にも遠慮してしまい頼みづらい。また、町内会内でもボランティアの担い手がいないなどの声があがっています。これを受け、地区社協から、「地域として一緒に何かできないか。是非協力したい」との声が。地区社協とタッグを組み、一緒にボランティア募集チラシを作成して町内回覧することで、登録者が33名増加しました。（R3.4/1～11/30・一部他の地域含む）



（QRコードで若い世代も取り込みたい）

《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

ボランティア不足の対応策を地区社協と共に検討!!（チラシを共同作成・回覧）

従来のハガキ・FAXによる応募に加え、新たにQRコードによる登録方法を増やすなど、各自に合った方法で気軽に登録出来るように工夫しました。また、ボランティアの流れを事前に説明することで、活動者の負担のハードルを下げて登録につながるようにアピールしています。

事例概要(第2エリア)

【担い手発掘の仕組みづくり】

～町内会の見守り活動等の講話を交えたボランティア養成講座開催～

町内会内で高齢者が増えてきた事もあり、町内会での見守りや認知症の徘徊、ちょっとした困り事の相談が年々増えています。

また、町内会役員自身が高齢化していることを受け、地域の担い手募集として、町内会とコラボしたボランティア養成講座を開催しました。このボランティア養成講座で地域住民、地域の歯医者さんとも協力体制を構築する事ができました。

第1弾として、町内会館ホールで『お口の健康講座』の講話と移動販売のコラボ企画に向けた話し合いも始まりました！少しずつではありますが、地域での支え合い活動に向けた仕組み作りを日々行っています！



☆コラボ企画打合せの様子☆

☆地域住民の意識改革！



★ボランティア養成講座がきっかけとなり、地域住民と地域社会資源が繋がりました。

《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

町内会とコラボを行い、ボランティア活動を身近に感じ取って頂く『きっかけ』づくりの視点を大切にしています。また、町内会で『支え合いの輪』が少しでも広がるようにとの思いを込めて、講座内容については役員さんと考えて組み立てました。

【南区】生活支援コーディネーター活動事例

事業概要(第1エリア)

生活応援ボランティア講座の開催 (R3.12.14)

「暮らしの中のちょっとした困りごとを誰かにお手伝いして欲しい」「自分もお手伝い出来るのであれば協力したい」という思いのある方を募り、ボランティア養成講座を開催しました。

『生活支援に活かす傾聴』の講義では、自身の受け止め方のクセなどに思い至った方が多かったようです。後半の動画視聴や『助け合い体験ゲーム』を通して、頼る声を上げる事の大切さ、又、難しさ、などを改めて体験し、今後のボランティア活動への意識向上へ繋げることができました。



《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

お互いさまの生活支援とは、出来る時に、出来る事を、出来る分だけ、が肝心で、無理は禁物です。理想を言えば、いつでも、どこでも、誰とでも、と思えるような、そんな支え合いの仕組みが地域で育っていくようなお手伝いを心がけています。

事業概要(第2エリア)

定山溪地区生活支援推進連絡会議の開催 (R3.7.27)

地域の福祉推進員・民生委員と『買物の困りごと』について以下の通り考える機会となりました。
①5年後10年後の自分の地域での生活をイメージする事。
②生活支援を担うボランティア活動、支援を受ける住民の意識について考える事。
③買物に関してこの地区に今後何が必要か、移動販売車やコンビニ買物配達ボランティアなどの提案。
④地域住民が将来的にも社会資源の継続活用を希望するものか意見集約が必要。
⑤実際に導入にあたっては連合町内会役員等との協議も必要。



生活応援ボランティア養成講座(初級編)の開催 (R3.10.23)

『身近にあるボランティア活動』と題して、講義と助け合い体験ゲームを行い(土曜日開催で高校生も参加)、お互いに「頼る」「助ける」の体験をする機会となりました。

《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

生活支援について、「自分たちの事として考えていただく」普及啓発の機会を繰り返し持つことが必要であり、定山溪の地域柄(支え合いの意識の高さ)も配慮した関りを意識しました。

事業概要(第3エリア)

真駒内地区生活支援推進連絡会議の開催 (R3.12.3)

真駒内地区緑町第一住宅団地において、居住者の年齢がさらに上がる今後5年、10年後の状況を見据え、令和2年度から、団地での支え合いづくりを目指し、協議体「グリーンネット」を設置しています。

令和3年12月3日に開催した第2回では、団地の現状把握、地域の相談窓口である身近な専門機関の役割・活動紹介を通じた連携構築の推進、情報交換による「独居高齢者の増加」「孤独死の問題」などの課題共有につなげました。



《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

管理組合役員の単年度での輪番制導入という新たな課題に直面する中、継続的な開催を通じた主体形成・支え合いの仕組みづくりを目指すことがポイントです。今後も、管理組合と区社協で調整を図りながら働き掛けを継続していきます。

【西区】生活支援コーディネーター活動事例

事例概要(第1エリア) 「新聞」を通じた居場所づくり

「新聞を通して新しい居場所づくり」をテーマに、コロナ禍で自宅に引きこもりがちだったシニア世代（特に地域コミュニティに参加するきっかけが少ない男性をターゲット）が一歩外へ出るきっかけづくりとして「まわしよみ新聞」を開催しました。

気になった記事を持ち寄り、内容について語り合う場です。地域の新聞販売店が新聞の提供や広報を協力して下さっています。八軒福祉のまち推進センターと一緒に地域の温かな居場所として根付いていくよう第100回を目指し、一緒に会を重ねていく予定です。



《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

地元の新聞販売店さんが地域に根差した活動を行っており、コミュニティ誌の中で過去に「まわしよみ新聞」を地域で行ったことがあった。その情報を「地域資源」としてコーディネーターがキャッチ・マッチングし、福祉のまち推進センターを通じて発信できたことがポイントです。

事例概要(第2エリア) 「今」「そこ」にあるさりげない想いが大切です

西町地区宮の沢町内会は地下鉄徒歩圏内の国道5号線沿いから南に山側へ広がる地域。山側は盛り土などで造成された急こう配の道沿いに住宅が立ち並びます。

高齢になると坂道の日常生活が負担となり、山を下りる傾向も見受けられたことから、この課題に対応すべく、住み続けられる環境整備の一つとして「買い物支援」に取り組むことに。昨年度から町内会役員や民生委員などと協議体で話し合い、山側の公園で民間スーパーの運営する『とくし丸』による移動販売を開始。協議体のメンバーが積極的に声掛けをしたり、荷物運びを手伝ったりと、地域住民の方が担い手として活動される一面も見られます。独居の方を始め、毎回お孫さんといらっしゃる方もおり、週に一度のさりげない住民交流の場ができています。



《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

住み続けられる環境整備が山を下りる選択を今一度考え直すきっかけになればと思っています。今後はゴミ出しなど他の課題解決に向けて話し合いを続けていく予定です。

事例概要(第3エリア) 買い物支援への取り組み < 発寒北買い物支援 >

発寒北地区の市営住宅自治会役員から、近隣の商店が閉店したことにより、たくさんの住民から買い物困難の声が上がっていると相談が寄せられたことを受けて、自治会や関係機関とともに買い物支援についてアンケート調査を実施。この調査結果をもとに協議体を設置。協議体の中で確認出来た住民意向を踏まえ、『とくし丸』誘致に結び、今後の更なる交流や生活支援の体制作りを推進している。



「ボランティア担い手」の養成にむけて

< 担い手養成のためのアンケート実施 >

関係機関と連携し、介護予防センター主催のすこやか教室参加者へ、傾聴やボランティア活動にむけたアンケート調査を実施。今後はボランティア・傾聴の養成講座を開催していく予定です。

《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

関係機関や住民の意見を聞き、地域のためにいっしょに考えることができたのがポイント。地域の方が主体的に活動できるよう、他区（他地域）の活動も紹介しながら調整を進めている。

【手稲区】生活支援コーディネーター活動事例

事例概要(第1エリア) 「地域の皆さんと二人三脚で」

富丘西宮の沢地区にある高台団地自治会で活動している「富丘いきいきサロン」に定期的に訪問し、普段の生活の様子や最近の困りごとについて伺っています。

自治会では一人暮らしの高齢者が増加しており、サロン活動が参加者同士が顔を合わせることができる憩いの場になっています。訪問を重ねる中で、自動車免許を返納したものの、近隣にあったスーパーが閉店してしまい、日々の買い物に困っている方が多くいらっしゃるようになりました。

こうした課題を受けて、生活支援コーディネーターは、移動販売車の経路やバスの運行状況を実際に地域の方たちと一緒に確認したり、スーパーの立地について福祉のまち推進センター役員の皆様と情報交換を実施しました。

今後は集めた情報を元に改めてサロンへ訪問し、買い物についての情報をお伝えしていきたいと考えています。また、サロン参加者以外にも自治会の中で困っている方はどのくらいいらっしゃるのか、関係機関とも連携しながら調査を進めていく予定です。



《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

地域の情報収集は生活支援コーディネーターだけではなく、地域にお住まいの方や福祉のまち推進センター、関係機関から情報収集することでより詳細に把握できると感じています。実際に地域に出て、バス停から町内会まで荷物を持って歩いてみることで、普段は気にかけることのない地形や勾配、環境などを理解できることもあります。

地域にお住まいの方に「こういった支え合いができるんだ」と考えてもらえるきっかけになるよう、参考になり得る他地区の取り組みを提供するなど、日々努めています。

事例概要(第2エリア) 「集まれ！！みんなの想い」

「コロナ禍で集いの場を開催することが難しい中、地域住民が日頃の想いを伝え合い、心身の健康を維持する取り組みができないだろうか」と介護予防センター中央・鉄北と共同で4月に「みんなの声を伝える伝言板」を実施しました。

伝言板は、そこまで歩くことが運動となり、日々の想いを伝言板に書き留めることで人とのつながりを感じてもらおうと、「鉄北コミュニティープラザ」に設置しました。

実施直後に緊急事態宣言が発令され、残念ながら多くの住民の声を集めるには至りませんでした。しかし、「取り組みをそのまま終わらせるのはもったいない」との声が関係者からあがり、再度実施することとなりました。

設置場所の変更や声の集め方など、関係機関や地域の方々との検討を重ね地区福まちも共催となり、10月に「みんなの声を伝える伝言板part2」としてあらためて実施。会館を利用する子どもから高齢者まで、「誰かと一緒に過ごしたい」「交流したい」という想いが伝わってくるコメントが集まりました。

取り組み後、「毎年の恒例行事にしてみたら」「住民アンケートにもなり得るのではないか」など、今後につながるアイデアも次々と生まれています。



《コーディネーターの視点「ここがポイント！」》

福祉のまち推進センターの方々をはじめ地域の方のご意見をお聞きし、一緒に作り上げることで多くの人に参加しやすい取り組みとなりました。

これからも、じっくりと地域の皆さんの話を聞き、安心して暮らせる福祉のまちづくりに取り組んでいきたいと思えます。

《第2層協議体会議の開催状況》

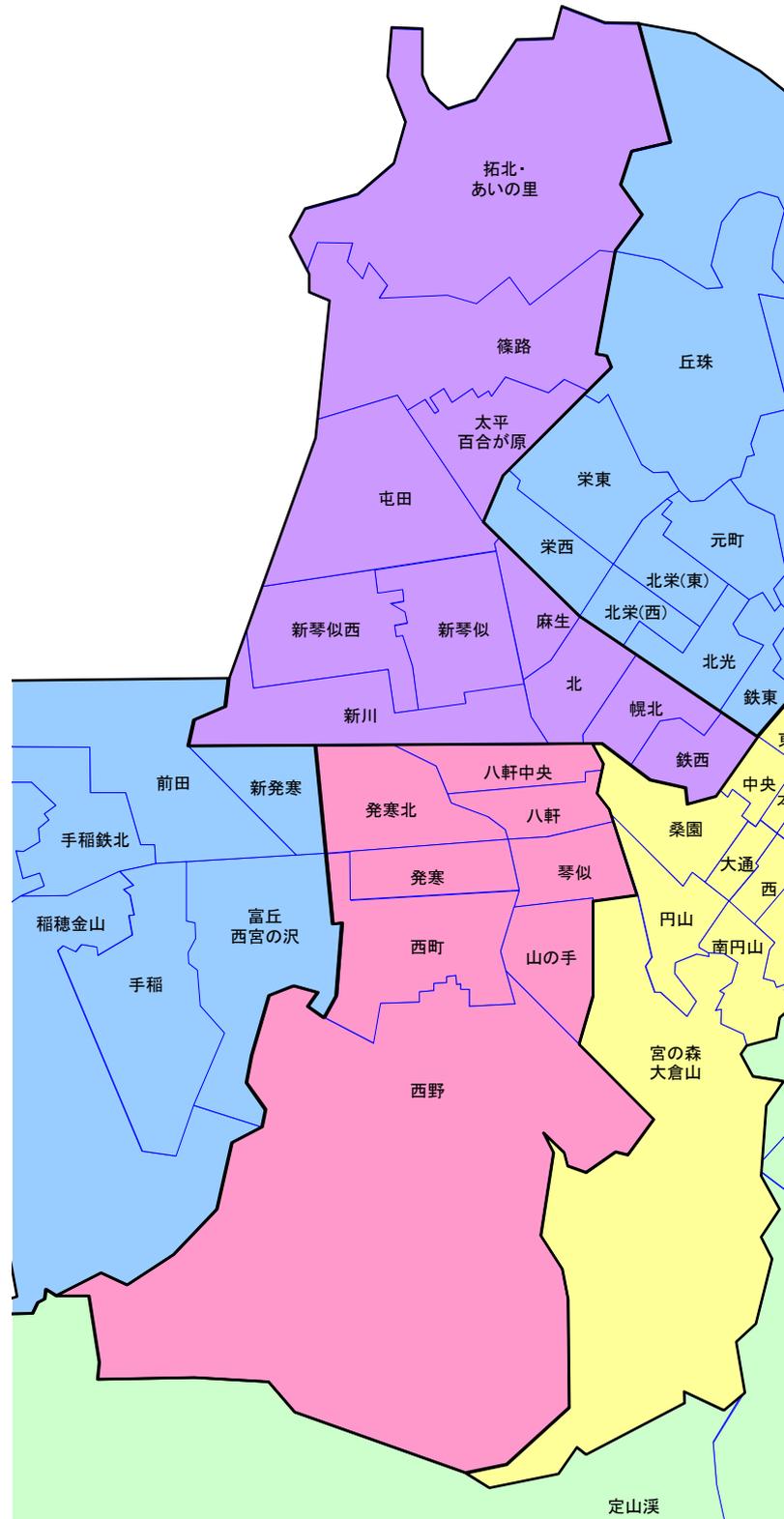
No.	中央区 第2層協議体
1	桑園地区(H30～)
2	中央地区(第8町内会、R1～)
3	宮の森大倉山地区(R2～)
4	山鼻地区(第2町内会、R3～)

No.	北区 第2層協議体
5	幌北地区(H29～)
6	篠路茨戸地区(H29～)
7	新琴似西地区(R29～)
8	幌北地区(H29～)
9	新琴似地区(H30～)
10	鉄西地区(R2～)
11	麻生地区(R2～)

No.	東区 第2層協議体
12	北栄地区(美香保町内会、H30～)
13	元町地区(一区町内会、H30～)、 (三区町内会、R2～)
14	栄西地区(第4分區、H30～)、 (福まち、R2～)、(単町会長等、R3～)
15	札幌地区(中沼団地町内会、R1～)、 (モエレ町内会、R3～)
16	伏古本町地区(伏古団地自治会、R1～)
17	丘珠地区(丘珠みなみ町内会、R1～)
18	北光地区(すこやか倶楽部・自主G、R3～)

No.	白石区 第2層協議体
19	白石地区(H30～)
20	菊の里地区(H30～)
21	東白石地区(本郷町内会、H30～)
22	東札幌地区(東札幌6条団地、R1～)
23	北東白石地区(R2～)
24	白石東地区(R2～)
25	北白石地区(R3～)

No.	厚別区 第2層協議体
26	厚別南地区(H29～)
27	厚別中央地区(H30～)
28	厚別東地区(R2～)
29	もみじ台地区(R1～)
30	厚別西地区(R2～)



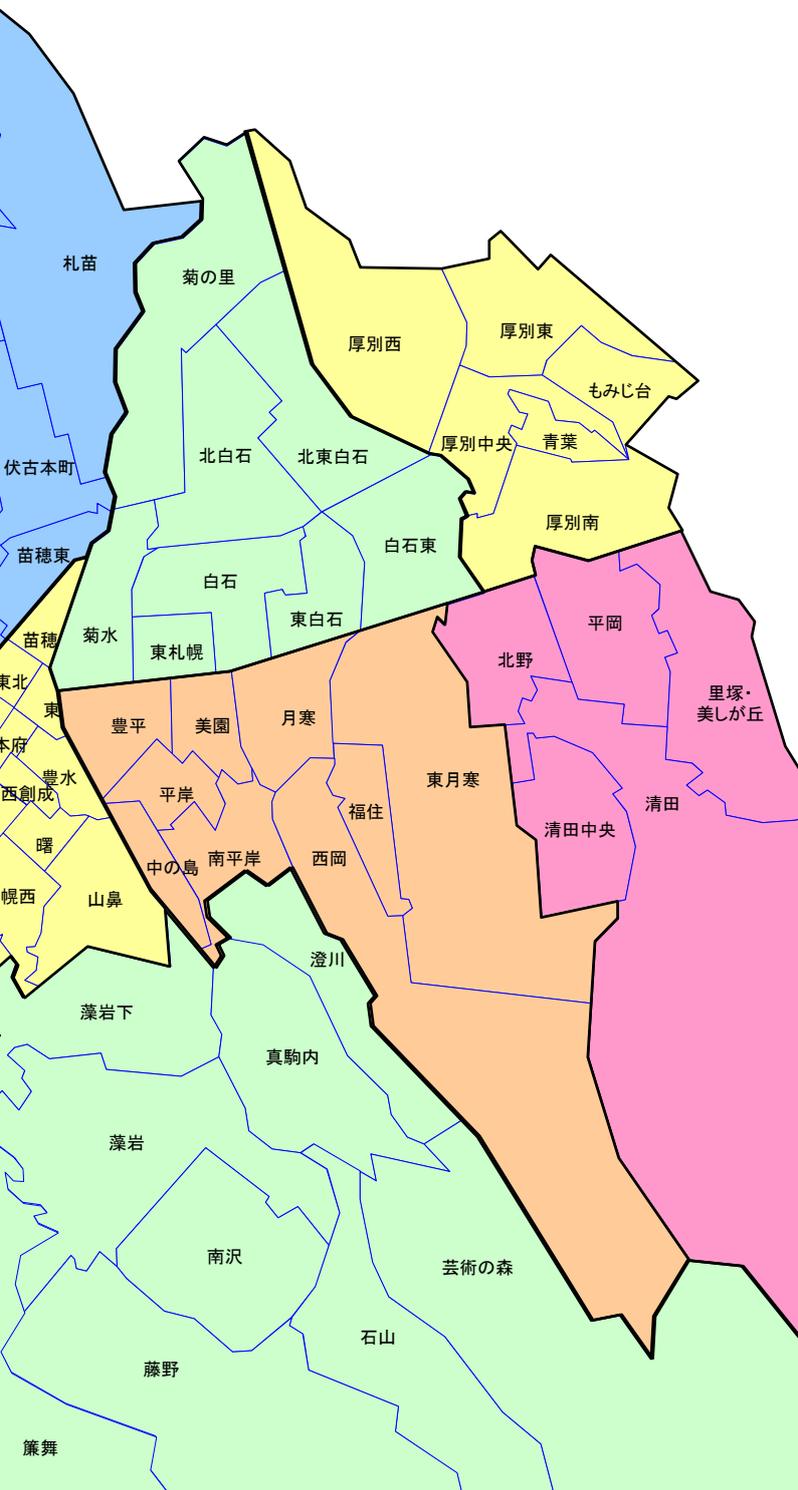
No.	豊平区 第2層協議体
31	中の島地区(H29～)
32	月寒地区(H29～)、(西月寒団地、R3～)
33	西岡地区(H30～)、(北団地、R2～)、 (南団地、R3～)
34	福住地区(H30～)
35	豊平地区(旭水町内会、R1～)
36	美園地区(R3～)
37	平岸地区・南平岸地区(R3～)

No.	清田区 第2層協議体
38	北野地区(H30～)、(北野641自治会、R2～)
39	清田中央地区(清田南若葉会、清田自治会、R1～)、 (清田西町町内会、清田団地元町町内会、R3～)
40	平岡地区(平岡三条団地自治会、 平岡春風台町内会、R2～)、 平岡小学校前町内会(R3～)
41	里塚・美しが丘地区(里塚団地自治会、R2～)、 (美里町内会、R2～)
42	清田地区(真栄団地町内会、R3～)

No.	南区 第2層協議体
43	石山地区(H30～)
44	藤野地区(H30～)
45	藻岩下地区(H30～)
46	南沢地区(R1～)
47	真駒内区(R1～)
48	定山溪地区(R2～)

No.	西区 第2層協議体
49	琴似二十四軒地区(H30～)
50	山の手地区(H30～)
51	発寒地区(H30～)
52	西野地区(R1～)
53	西町地区(R2～)
54	発寒北地区(R3～)

No.	手稲区 第2層協議体
55	富丘西宮の沢地区(H30～)
56	手稲中央地区(H30～)
57	前田地区(R1～)
58	手稲鉄北地区(R2～)
59	稲穂金山地区(R3～)



〈令和3年12月1日現在〉

講評 座談会「買い物でみんながつながるまちづくり ～豊平区旭水町内会の買い物支援活動～」を通じて

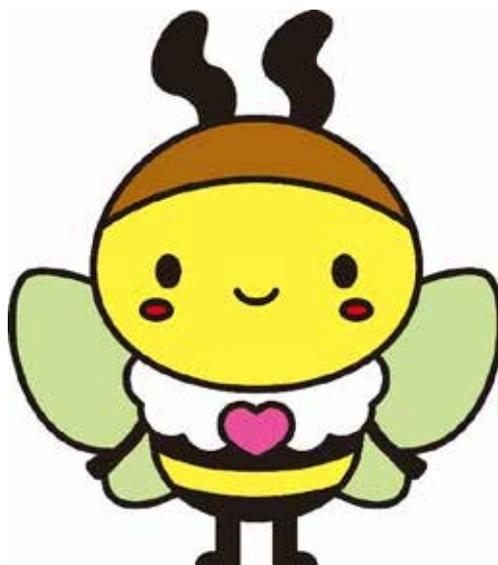
移動販売を呼んで来て買い物の課題が解決するのではなく、実は地域づくりの始まりであることを教えていただきました。

移動販売に来るのが難しい一人暮らしの高齢者をボランティアで支援。「大変じゃないですか」と聞いたら、「地域づくりは楽しいから苦にならない」と皆さんおっしゃる。元気な地域に元気な住民がいる。介護予防を超えた地域の宝物です。生活支援コーディネーターが住民の人に交えてもらって伴走しているのもすばらしいと感じた取り組みでした。

東北福祉大学 総合マネジメント学部 教授 高橋 誠一氏



札幌市 生活支援コーディネーター イメージキャラクター誕生！！



名前：さぽっちー

◆ 由来：「サポート」+「はち」

◆ 説明：

「地域の支え合い」をサポートするために活動するミツバチ。

地域の皆さんがもっと暮らしやすくなるよう、みんなの想いを集めて運びます。

胸元のハートは、みんなの想いを察知した時に光るハートペンダントをイメージ。

触覚は Support(サポート)の「S」の表しています。

◆ キャッチコピー：みんなの想いを繋ぐよ

各生活支援コーディネーターは、皆さんの地域の「さぽっちー」として、日常のちょっとした困り事や、地域のお宝情報(地域の資源)を探しています。

ご自身の事はもちろん、身の回りのちょっと気になる方のお話についても、気軽にコーディネーターまでご連絡ください。

～札幌市内に広がる支え合いの輪～



お問い合わせ先

生活支援体制整備事業についてのお問い合わせは、札幌市社会福祉協議会もしくは第1層生活支援コーディネーターが配置されている区社会福祉協議会へご連絡ください。

名称	所在地	電話番号
中央区社会福祉協議会	札幌市中央区大通西2丁目9 中央区役所仮庁舎5階	281-6113
北区社会福祉協議会	札幌市北区北24条西6丁目 北区役所1階	757-2482
東区社会福祉協議会	札幌市東区北11条東7丁目 東区民センター1階	741-6440
白石区社会福祉協議会	札幌市白石区南郷通1丁目南8 白石区複合庁舎1階	861-3700
厚別区社会福祉協議会	札幌市厚別区厚別中央1条5丁目 厚別区民センター1階	895-2483
豊平区社会福祉協議会	札幌市豊平区平岸6条10丁目 豊平区民センター1階	815-2940
清田区社会福祉協議会	札幌市清田区平岡1条1丁目 清田区総合庁舎3階	889-2491
南区社会福祉協議会	札幌市南区真駒内幸町2丁目 南区役所3階	582-2415
西区社会福祉協議会	札幌市西区琴似2条7丁目 西区役所1階	641-6996
手稲区社会福祉協議会	札幌市手稲区前田1条11丁目 手稲区民センター1階	681-2644
札幌市社会福祉協議会	札幌市中央区大通西19丁目1-1 札幌市社会福祉総合センター3階	614-3344

●作成 社会福祉法人 札幌市・区社会福祉協議会 / 特定非営利活動法人ワークスコープ / 医療法人社団 豊生会 / 医療法人 重仁会 / 社会医療法人 恵和会 / 医療法人 愛全会

●問合せ 社会福祉法人 札幌市社会福祉協議会
札幌市中央区大通西19丁目1-1 札幌市社会福祉総合センター3階
TEL: 011-614-3344 FAX: 011-614-1109

●発行日 令和4年3月